



紀伊國名所圖云

三之卷下
海士郡

ル 4
1833
5



1833
5

紀伊國名所圖會卷之三下



善寺 善寺上人像 住吉神社

崇谷觀音 諏訪神社

宇佐八幡宮 烟主神社

姥櫻 貴志甚志清猿

住吉神社 八幡宮社

和田千軒 慶善光寺

極樂寺 田中神社

南宮神社 萬福寺

儀乃浦 石浦 二見寺濱

十輪寺 石像 古屋の泊

伽陀寺 金剛寺 西福寺

竹留八幡宮 弁財天社

梶取總持寺

崇谷の文

宗圓の松

大蔵神社

稻荷神社

親通寺

親月持跡

八幡神社

春日神社

揚枝の舟

常行寺

迎之坊

經藏 越前上人の御影

美宮八幡宮

徳藏院

北宮の涉

松江 法利具

春日神社

寂光院

名物系切餅

光福寺

潮入橋

春日神社

稱念寺	石佛陀寺	光源寺	昆沙門堂
仲所の井	八王子橋	八王子山	新田藤店
蓮華井	鏡さき池	行者堂	石字寺
形見浦	形見山	和布製圖	古城跡
澄心神社	沢河金	沖所	御供所
中言神社	御所	昆沙門堂	御供所
友が池	竹後堂	沖の砂小名	ふぶち
深池	地の砂小名	神嶋	五ヶ所額
八王子	深ヶ瀬	小所七度濱	龍浦
道祖神	深山	報恩講寺	八幡
圓光大師教化の圖			八幡

光明山善導寺

○服檀弥陀三尊御新西村末にあり榮二宗西山池惣持寺に屬り ○奉尊阿弥陀如來座像一尺六寸

○親鸞上人授けし像長き尺一上人の自他あして杖をたぐりて鞋

○鎮守天満文當山は自宗の靈像なり

當山の皇二百代後園融天皇の御代永承四年妙稱光融

上人の冥基りて當昔寺に廣莫の大仏場ありて始

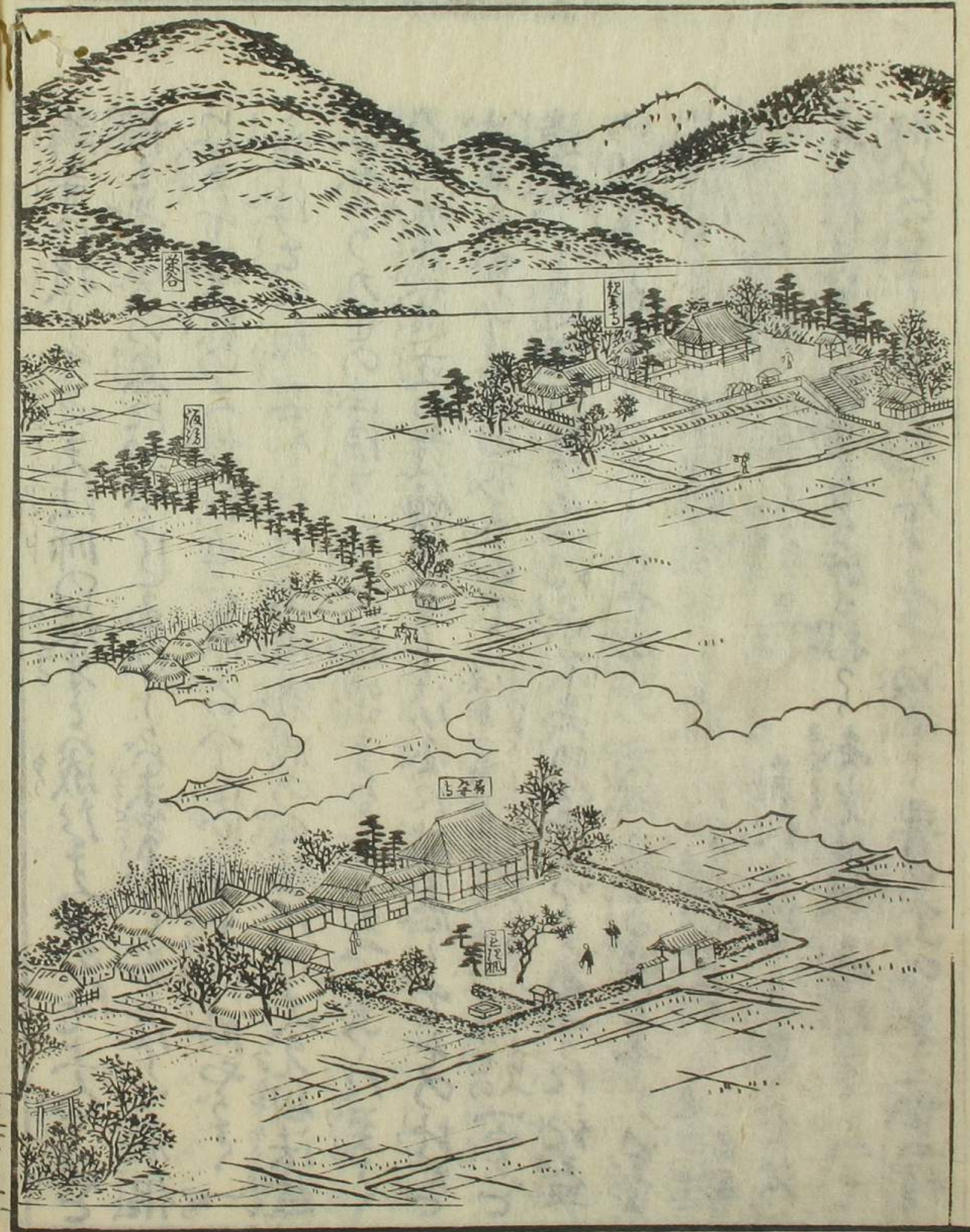
祖上人の俗姓とありて上受園の人にて父の利根

の某とありて英雄の士ありて初老のころまてい

まて一子ありて夫婦相とありてかからしむり

觀音大士とありて持念とありて痛くありて後信老の

寺特むありて母公たるありてはわに



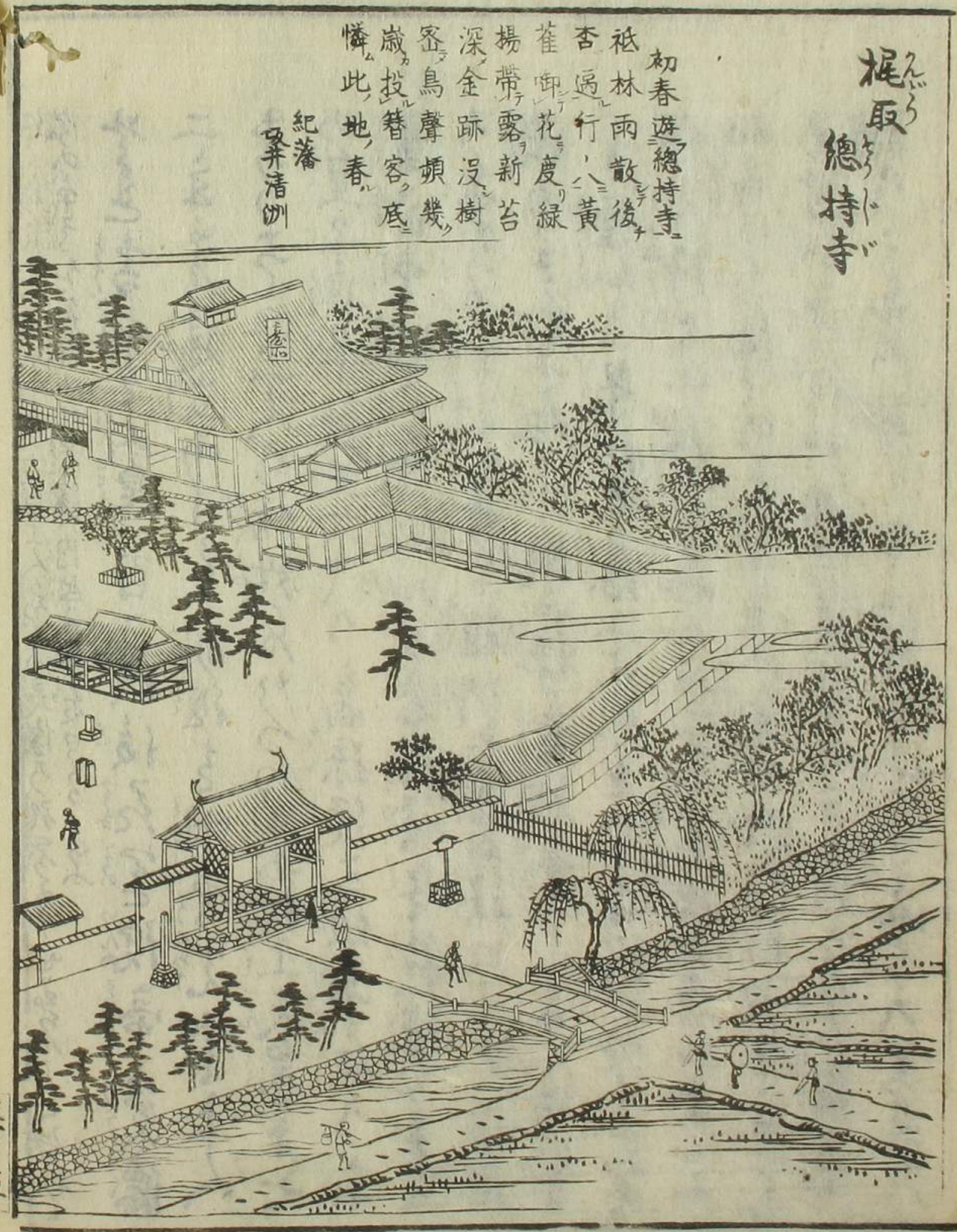
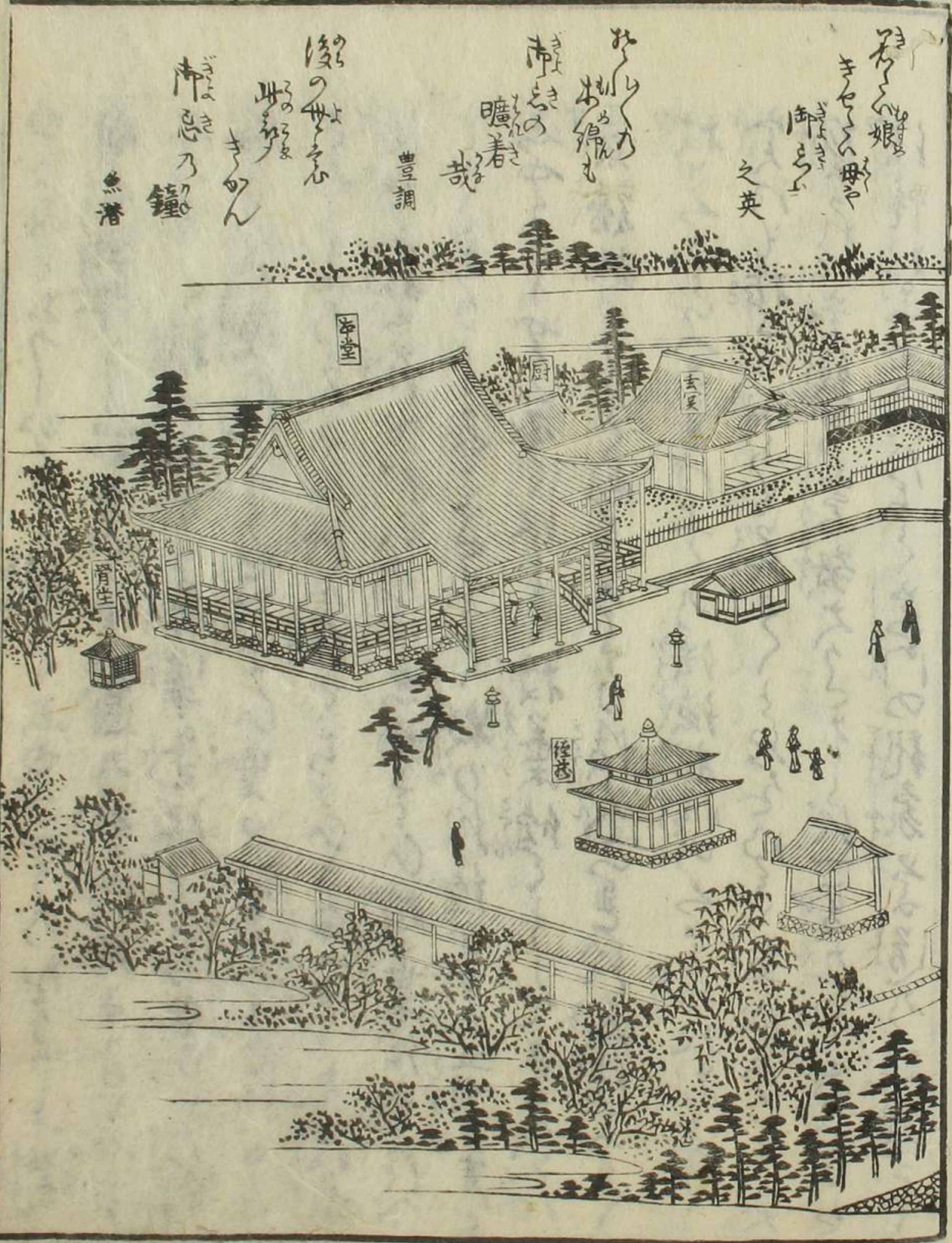
去るあひける終る長元年三月廿九日法昭八十一
生主とて遂ある其後執持の岡山明秀光雲上人も
了び揚とめつとるも終る起るる地あること
漸廢頽れおび終る天の兵火おにに什室よりまて
とて燒失し今燒に存するものも多し後これよりて
たげ孫あめりけるさるなりとる

○什室法師大師神自筆のる新
住吉神社 推取村あり なる所の神二座 蛭千住 一村の産神にして例

受陽山知足院總持寺 推取村あり 浄土祖西の檀越七ヶ寺の共
本尊阿弥陀如來 座像長六尺佛二淨而の作りて白毫に佛舎

陀如來を尊して奉るとん人の信するは山十四世妙法上人は
物に於て壇上は確したる人の備まのりまのあつた上人のたかたは乃
其の教を新しとて其像の内蔵に奉りてとる

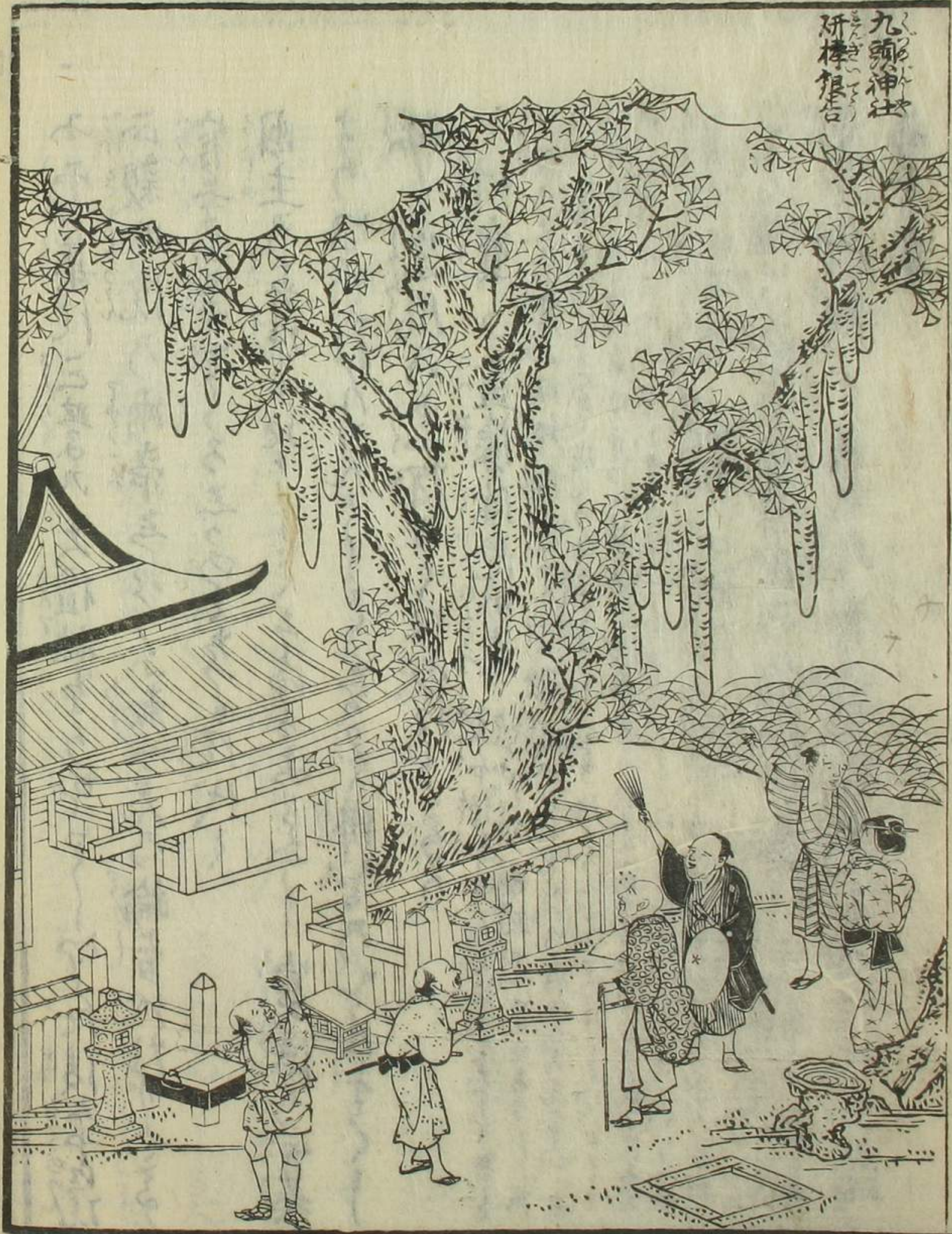
廿二の年皇一白二代後花園院帝實徳
二年を建立ありて用組を明秀光雲上人
たりとて上人の俗姓なりたつた村上天皇予七
の皇子具平親王二代の裔孫從三位末等乃末
葉赤中橋守郷村が息孫守郷守郷資が孫二
乃子たり則村の古く様明の喜が族れりて依用
我あつたの居り風小御者に奉りしとて難
一圓心と号れとるは上人といふもあつたよ
ゆく修公の歸り孫らつたるもあつた
心歸り乃ほぐのまゝあま念四終の法ををこ
あやひ事には修頓のちのちのちを實人教受
用りたるの詠しはひあつたなりとる



中らふとありて諸君とてあきまうなりをうらむ
園有田郡に於て十八箇の梵刹ありて
あまのく福のむかひ菩提寺にきよちゆりしたる
ゆゑに田境にてもたまひ曳たまふと云ふ
さうゆゑ乃ちそなたのちりちりゆりて
後世におもたせむは乃ち生かすべ
しとありてふとてしとねはねはね
あまのくあまのくあまのく
志業都とてあまのくあまのく
杖さうとてあまのくあまのく
實にも杖さう樹もあまのく
坊さうとてあまのくあまのく
法幢とてあまのくあまのく

小雲集に三皇乃大檀林なり
正親所院乃兩帝志なり
官守不命とてあまのく
園主乃菩提とてあまのく
よりあまのくあまのく
微く宗凡乃志探日とてあまのく
○什寶の畫像法陀如来
百の法ありてあまのく
あまのくあまのく
○元祖法然上人真此乃舍利之題
形之御影
あまのく

九頭神社
研棟



宗園の松

貴志村より山の上あり

○勝園のよた後野家の老上田宗園あり

世にもきこえ「英雄にしてあつた風流の道おも暗りさざり
と名こり首塚のふとふ手はく一株の松と極く老ふ其
真操瓜賞にさき」送愛の樹ありとと

與諸子遊榮谷分題賦得冬嶺孤松

詩意咏宗固松宗固松在葛嶺西梅村上

祇南海

矯く嶺頭樹亭く天外條根え在僻境名獨自前朝。

偃蓋而常抱貞操霜不凋英雄亦陳跡萬古望岩堯。

北園山碧岩院

羽村あり

本寺觀世音

不詳

嶺ちの吹上禪林寺史らわ尚の用巻にして和出彼所を退
院のわらふふふに終る是則終焉の地也○尚寺に婉
様乃大樹數株ありて添生のはいつては觀と遠近の
諸人里まふ日くに樹下ふあくとちる実園園の名にあり

夾山

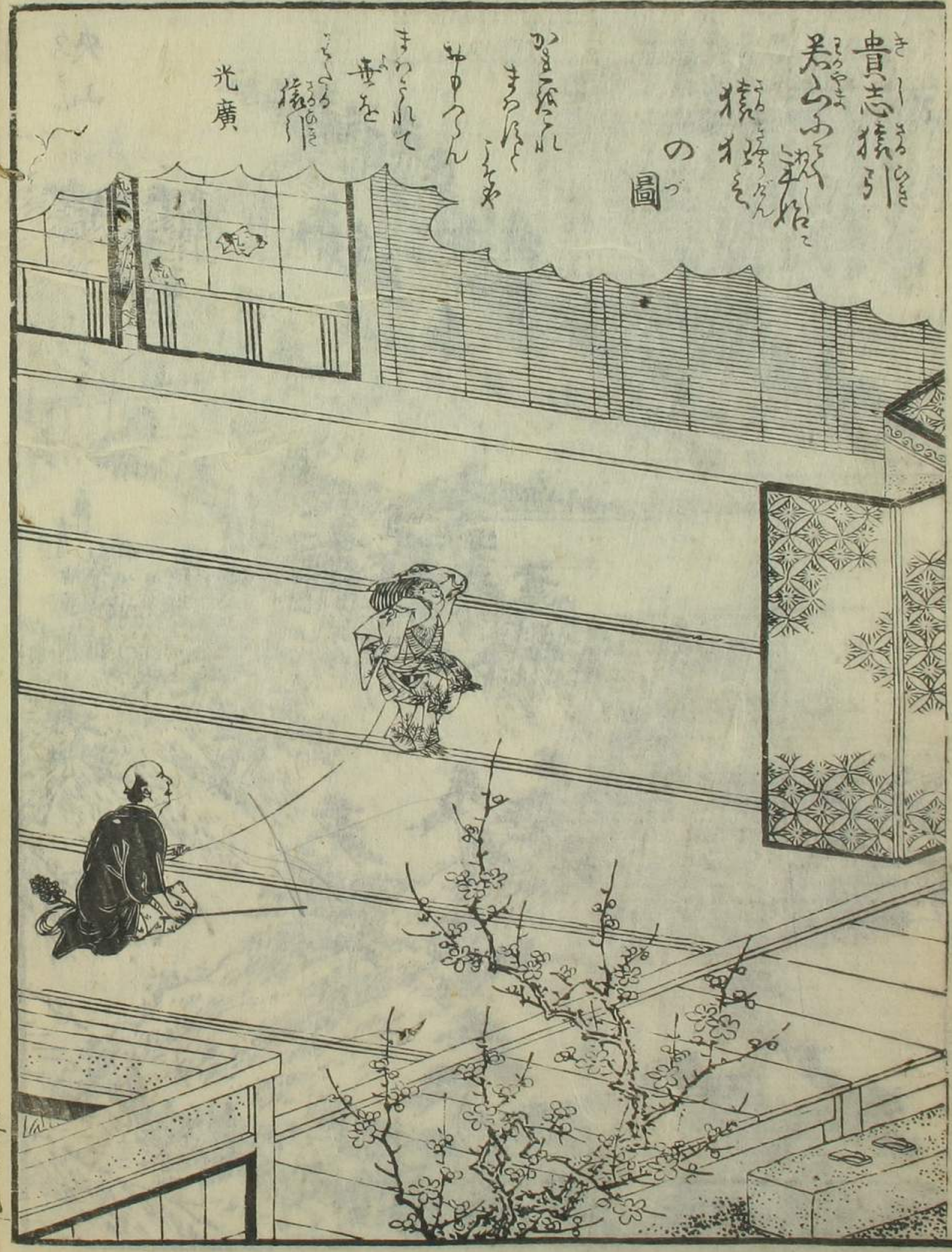
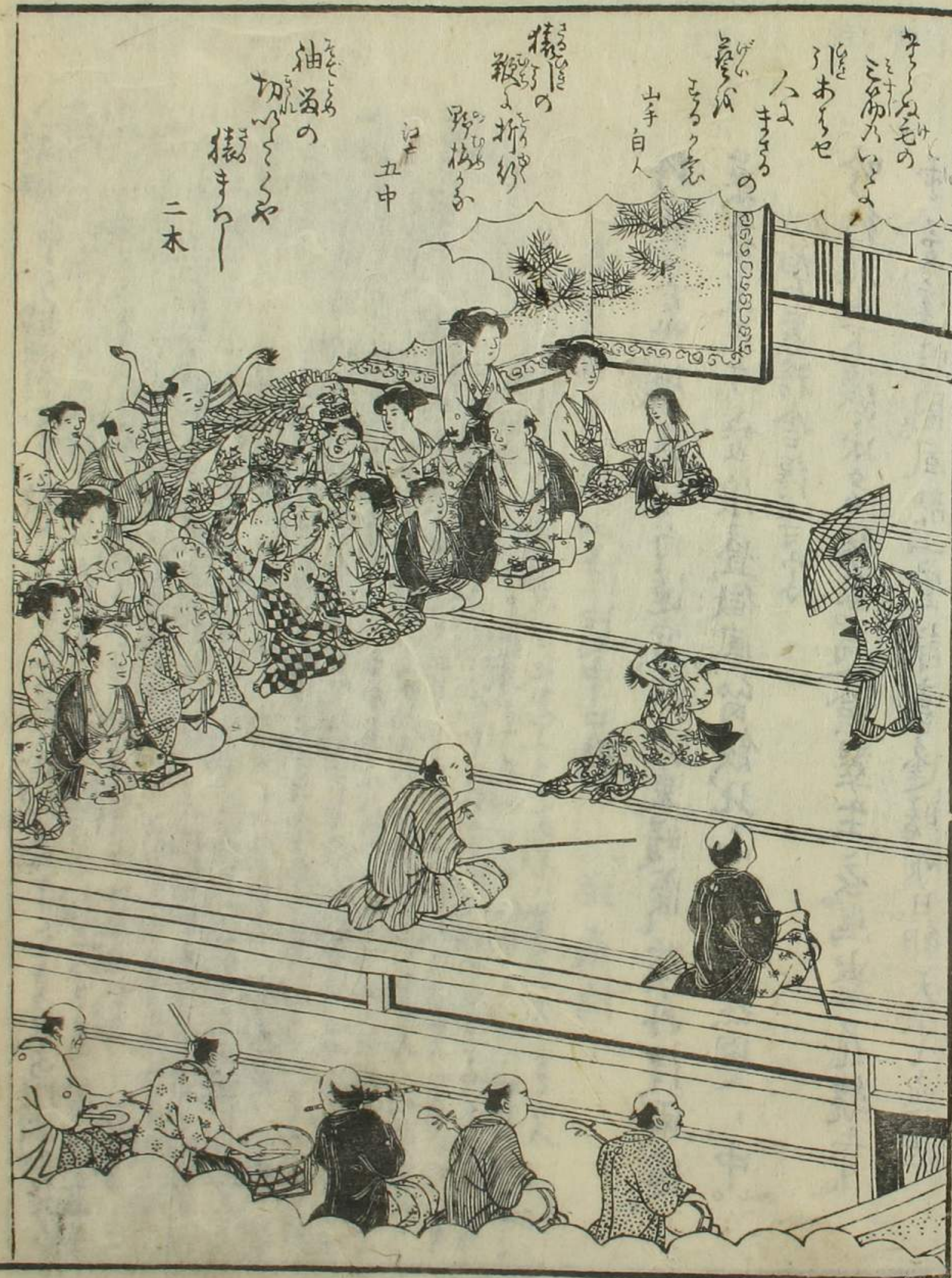


借入道本カ
 蕭鳴軒二本邦
 櫻之詠スル詩一
 東來初見此花奇
 無限春叢讓白眉
 的皜蟾珠三百斛
 瓊玉樹萬千枝何妨
 穠李先春艷不與寒
 梅遜雪枝若使短城言
 裡種清光多似桂開時
 丁巳年仲夏於日本
 一いつ之也
 三

空山



空山園



八幡宮

本庄本村の

○祭る神二座

本庄の産神

例祭毎年八月十五日○當社より由縁ある宮舎ある一祝官

の某たる家小嘉慶應永永享の間平氏盛前豊前守若盛
中務丞盛直未が神祇寮附の帖敷ありまて布く義表不掲る
とこの類ありとそ是と藏せり傳へ小野道凡初年の祭り
あることともしある一當付藏免一篋の既不掲るまて改め
たるを又長二年と記日具古く傳へることかへ一唯八幡宮
の二字と題せり其初凡るに利蝕せんて皮とて知皮とて
字の上は法とて今もまて縁とて倍のありてとて文
ちありしとて換るるともく湯起ていとあやうはりて其運
筆をんるふは頂古雅室に其跡うらむるもの益中祭以
降天下下テ戈の衢とあり世も名もする神社佛圖の法兵火不
羅とて傳へるの重差珍室焼亡とてその災掃るる今この

本家のいれ現はなせること皇考の甚ましくなりんや指古
十種かといふ比摩利帖木のかと用ひて凡法内は居るうとて
どもれけ送漏を免まじ鳴呼津り野不送賢ありとて今や
とて好古の士のこめ其縮圖となす也

古額之圖

小野道風筆



長二尺四寸五分
横一尺八寸五分

恒吉神社 小嶋村 一村の産神ありて例祭毎歳九月晦日
 八幡宮 狐崎村 一村の産神ありて例祭毎歳九月十五日
 稲荷大明神 狐崎村 多る神二座 繪手神を祀りありてこれ例

祭毎歳九月十六日

松江 松江府松江 紀の川の 羨はより西の松の根まての松原ありて
松江府松江 紀の川の 羨はより西の松の根まての松原ありて

夫の地は風色たる必山に峻くして有る日景を合ぐ金銀の
 色と醜く南に傾くたる蒼海月めを浮く塩摺の光と
 磨たり松江を松の幸盛たる冬の暮れは雪を白濱を
 沙の鮮明たる夏の雪ももろろ千維の都城の内
 几従へ二子の島渚波浪に浮きまき水人の影まる波と



松江
 蛤貝

小貝掛人
 遠とに

浴
 定雅

おののけの二圃二圃の翠黛たり 范蠡舟常以維ぐる
陵が竹もいぬあり まま日又感あり 雪と鳥あり 妙の
しらふくむの美に殊ととも 瀛よりていあう 具乃
りさうもきで凡流俗ののらあちく 四何あまの地
るべく 名産は貝
魚 鱈 中洲の地は 魚の地は 魚の地は 魚の地は
一奇匠 松露 鳥貝 異なり 色をあげて
壬生百首
紀の海や春ののさふさふくけささとし沖津さげぬ
祇南海
松本 松本 松本

鴨啼山寺

鴨啼山寺 鴨啼山寺 鴨啼山寺
客過石枕 鴨啼山寺 鴨啼山寺
暮時侵雨 鴨啼山寺 鴨啼山寺
石枕 鴨啼山寺 鴨啼山寺

和由十軒

和由十軒 和由十軒 和由十軒
和由十軒 和由十軒 和由十軒
和由十軒 和由十軒 和由十軒
和由十軒 和由十軒 和由十軒

慶善光寺

慶善光寺 慶善光寺 慶善光寺
慶善光寺 慶善光寺 慶善光寺
慶善光寺 慶善光寺 慶善光寺
慶善光寺 慶善光寺 慶善光寺

揚栞山観通寺

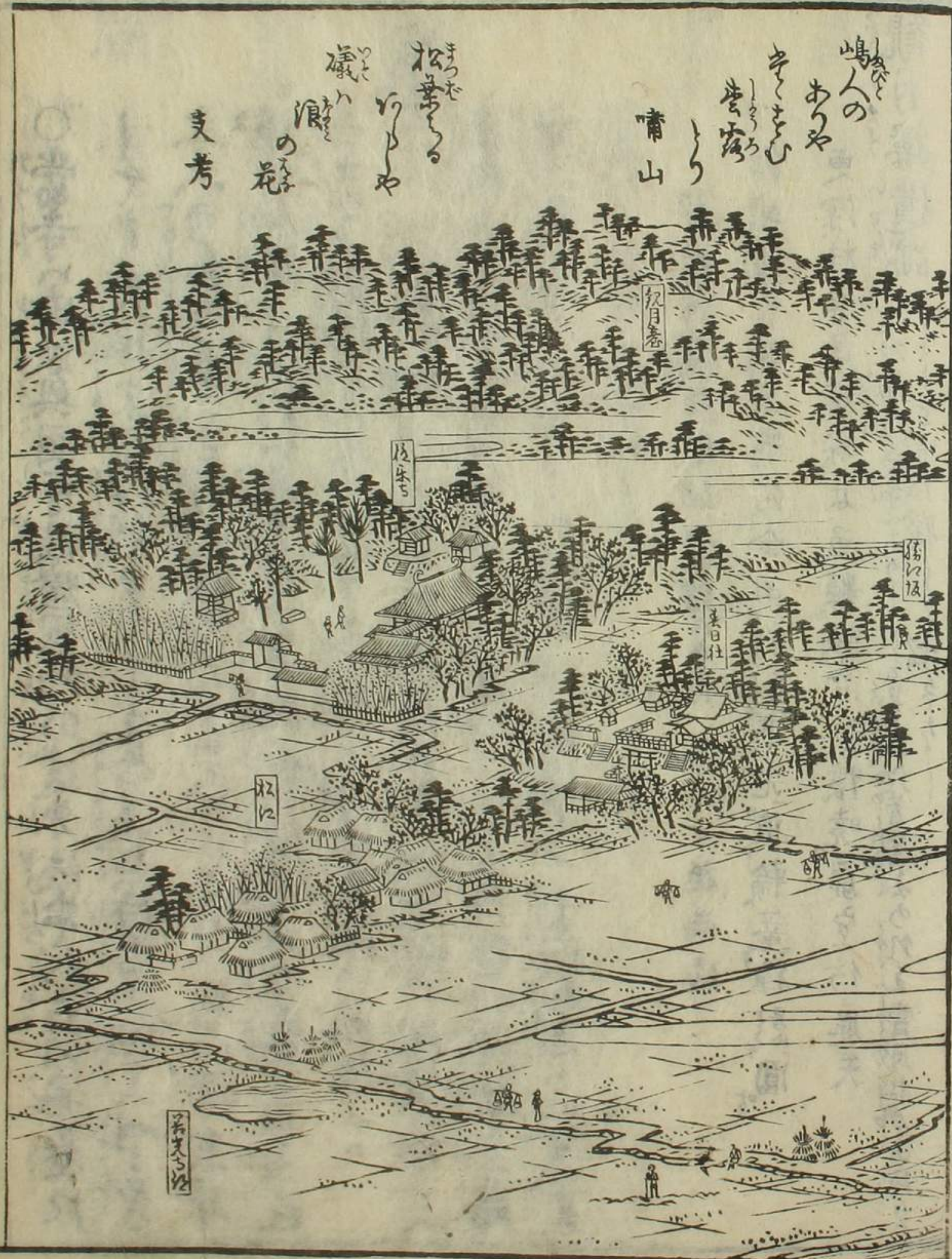
揚栞山観通寺 揚栞山観通寺 揚栞山観通寺
揚栞山観通寺 揚栞山観通寺 揚栞山観通寺
揚栞山観通寺 揚栞山観通寺 揚栞山観通寺
揚栞山観通寺 揚栞山観通寺 揚栞山観通寺

春日大明神

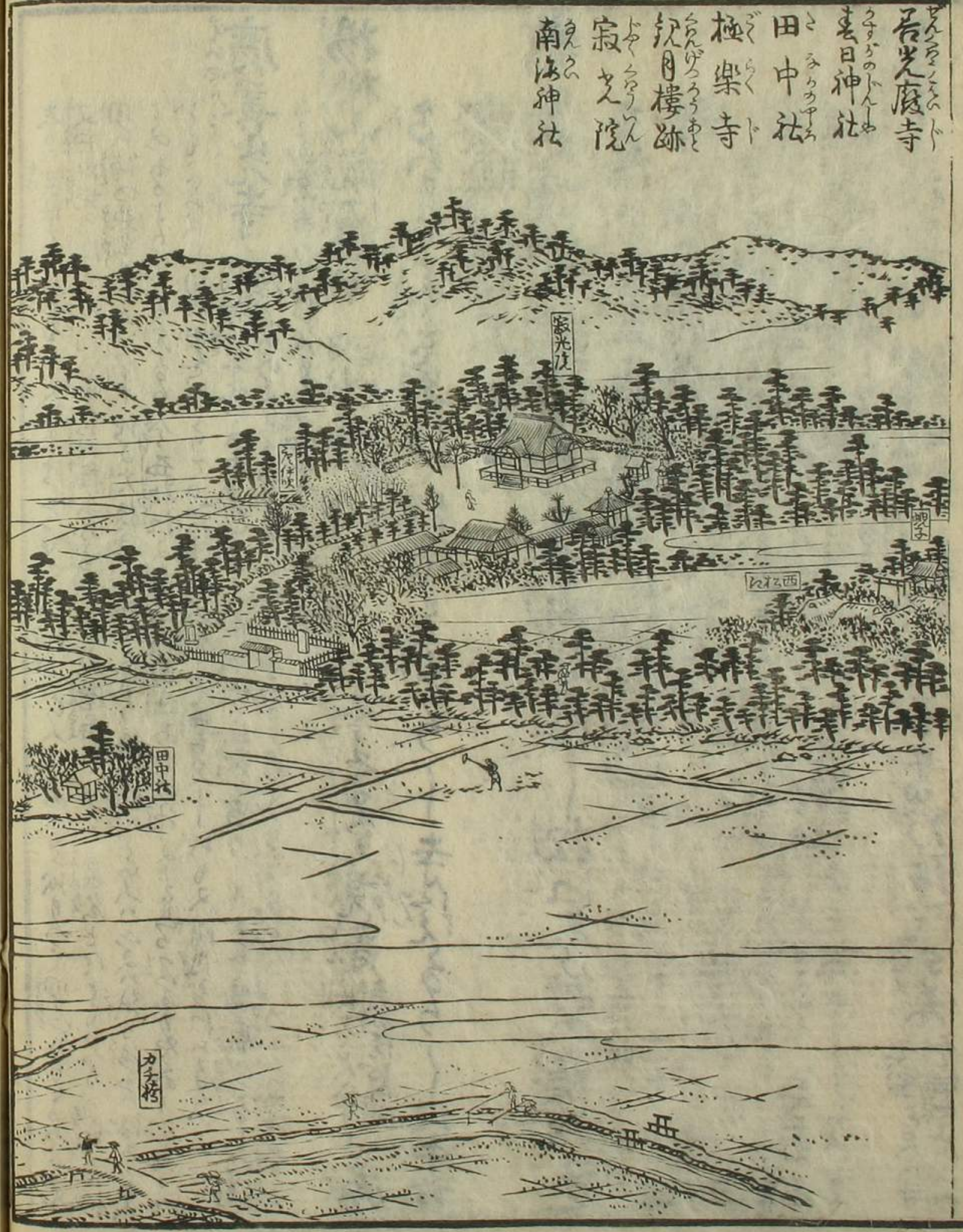
春日大明神 春日大明神 春日大明神
春日大明神 春日大明神 春日大明神
春日大明神 春日大明神 春日大明神
春日大明神 春日大明神 春日大明神

茨中 山極樂寺

茨中 山極樂寺 茨中 山極樂寺 茨中 山極樂寺
茨中 山極樂寺 茨中 山極樂寺 茨中 山極樂寺
茨中 山極樂寺 茨中 山極樂寺 茨中 山極樂寺
茨中 山極樂寺 茨中 山極樂寺 茨中 山極樂寺



嶋人の
 あらや
 きくま
 菅家
 嘯山
 松葉
 のりや
 歳
 の花
 支考



吾光廢寺
 春日神社
 田中社
 極樂寺
 観月樓跡
 寂光院
 南海神社



餅切屋

主人も
まき
ひも
餅切
の
賞
志友

餅切

日 乃 神 手 纏 持 在 玉 故 石 浦 迴 潜 爲 鴨
 日 候 之 浦 爾 來 依 白 浪 文 下 過 不 勝 者 雄 爾 絶 多 倍
 二月廿六日 中 臣 清 磨 於 店 之 宅 奉 寄
 拾 奉 人 啓
 名

日 乃 浦 之 浦 中 臣 清 磨 於 店 之 宅 奉 寄
 拾 奉 人 啓
 名

日 乃 浦 之 浦 中 臣 清 磨 於 店 之 宅 奉 寄
 拾 奉 人 啓
 名

日 乃 浦 之 浦 中 臣 清 磨 於 店 之 宅 奉 寄
 拾 奉 人 啓
 名

日 乃 浦 之 浦 中 臣 清 磨 於 店 之 宅 奉 寄
 拾 奉 人 啓
 名

日 乃 浦 之 浦 中 臣 清 磨 於 店 之 宅 奉 寄
 拾 奉 人 啓
 名

日 乃 浦 之 浦 中 臣 清 磨 於 店 之 宅 奉 寄
 拾 奉 人 啓
 名

日 乃 浦 之 浦 中 臣 清 磨 於 店 之 宅 奉 寄
 拾 奉 人 啓
 名

日 乃 浦 之 浦 中 臣 清 磨 於 店 之 宅 奉 寄
 拾 奉 人 啓
 名

日 乃 浦 之 浦 中 臣 清 磨 於 店 之 宅 奉 寄
 拾 奉 人 啓
 名

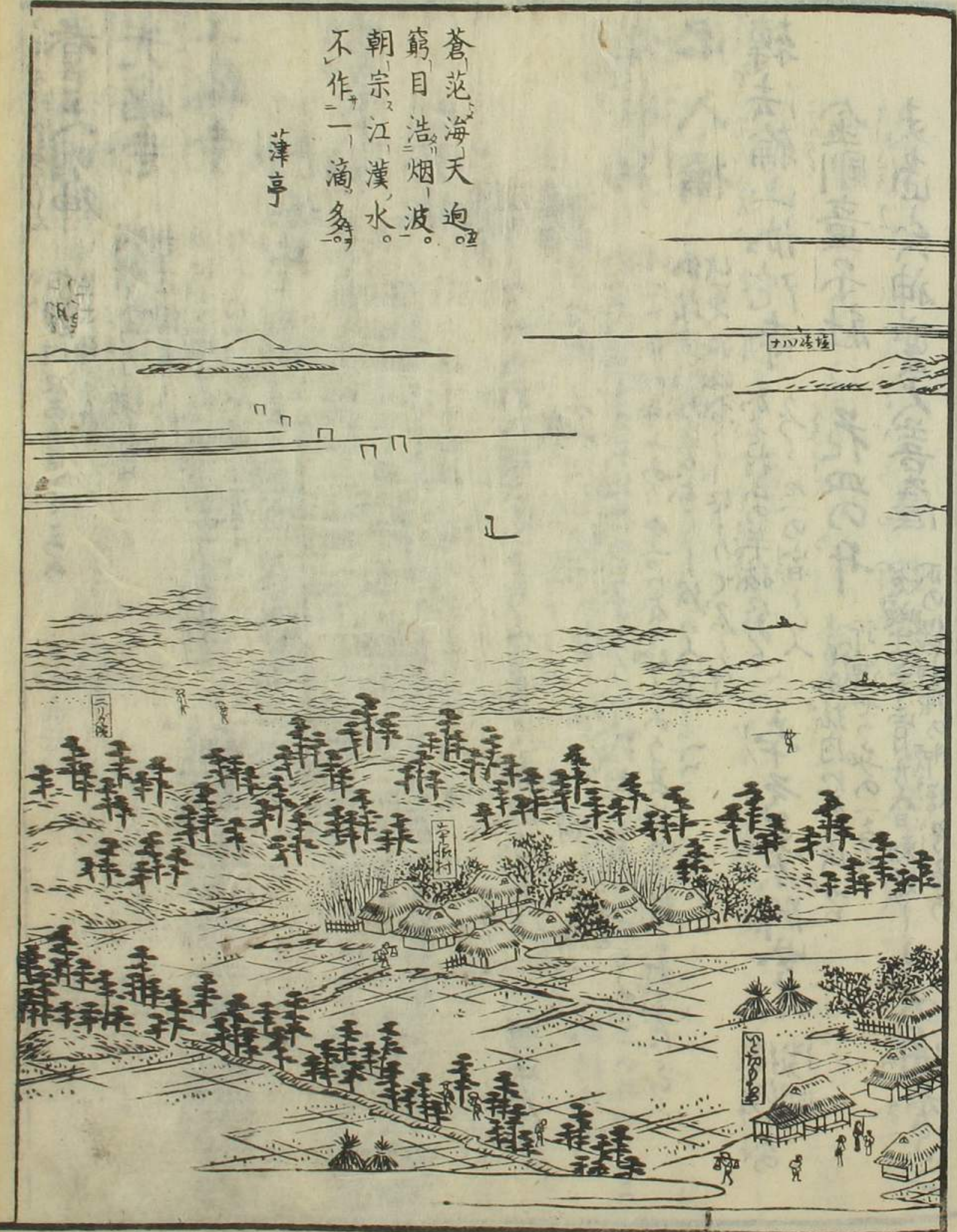
日 乃 浦 之 浦 中 臣 清 磨 於 店 之 宅 奉 寄
 拾 奉 人 啓
 名

日 乃 浦 之 浦 中 臣 清 磨 於 店 之 宅 奉 寄
 拾 奉 人 啓
 名

日 乃 浦 之 浦 中 臣 清 磨 於 店 之 宅 奉 寄
 拾 奉 人 啓
 名

蒼茫海天迥
 窮目浩烟波
 朝宗江漢水
 不作一滴多

津亭

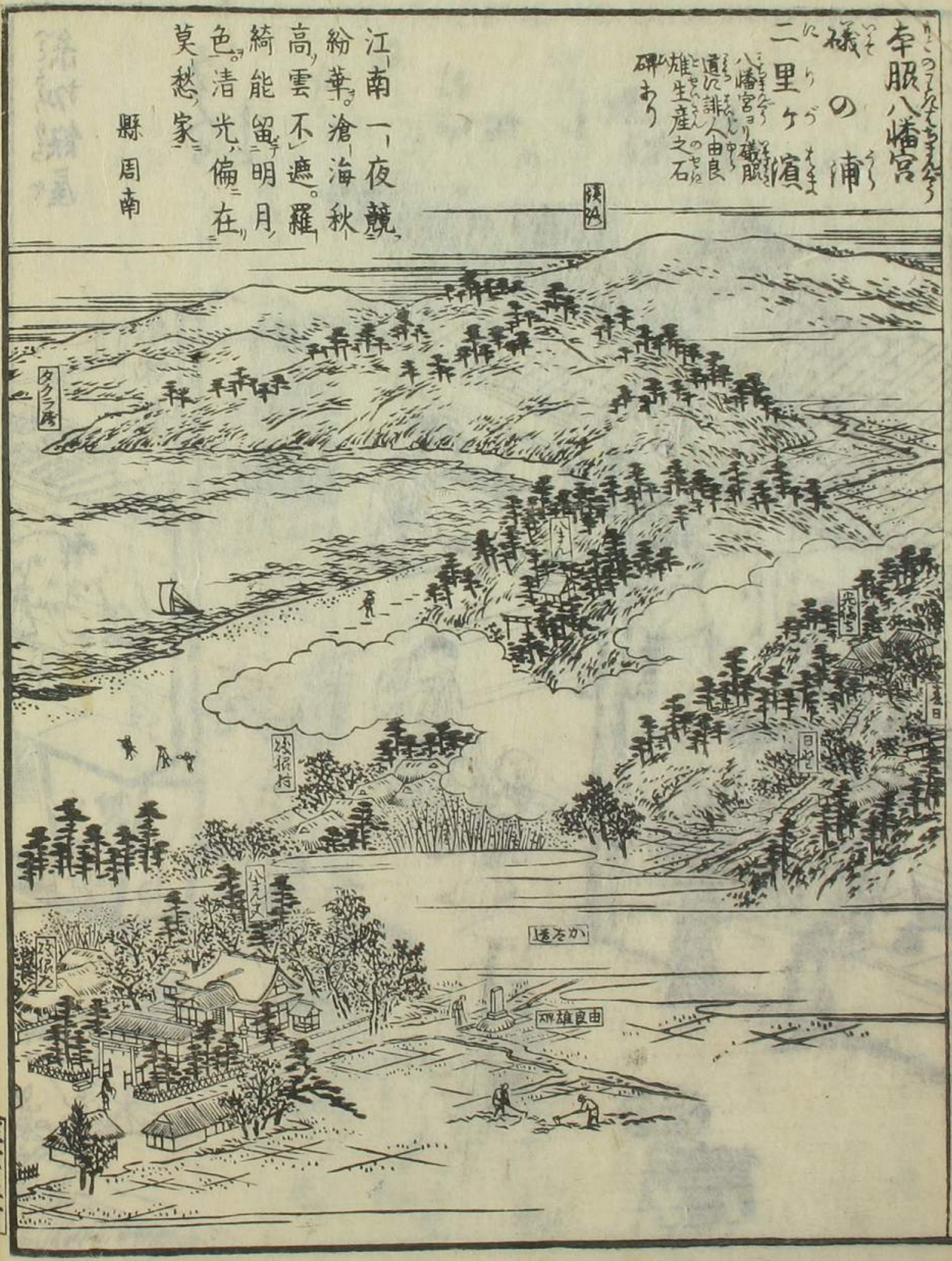


江南一夜競
 紛華滄海秋
 高雲不遮羅
 綺能留明月
 色清光偏在
 莫愁家

縣周南

奉服八幡宮
 二里ヶ宿
八幡宮より南に二里あり
 道に俳人由良雄生産之石あり

深田



春日大明神 日野村にありけり

光福寺 日野村にありけり

十輪寺 日野村にありけり

阿伽井 日野村にありけり

古屋の泊 日野村にありけり

湯杖の井 日野村にありけり

入橋 日野村にありけり

轉法輪山伽陀寺 日野村にありけり

金剛童子社 日野村にありけり

花四の井 日野村にありけり

夫由六神變大菩薩 日野村にありけり

春日大明神 日野村にありけり

光福寺 日野村にありけり

十輪寺 日野村にありけり

阿伽井 日野村にありけり

古屋の泊 日野村にありけり

湯杖の井 日野村にありけり

入橋 日野村にありけり

轉法輪山伽陀寺 日野村にありけり

金剛童子社 日野村にありけり

花四の井 日野村にありけり

夫由六神變大菩薩 日野村にありけり

人皇六十代醍醐天皇の勅願によりて七堂伽藍と御創建

ましくけりて尊ん其場あり住右大門の持堂塔の莊嚴

鐘樓井栴建より僧坊費をさうたて魏く終りて哀

むんたふ天の兵火よ鳥存くあまるとを造らるる井かこも

御代のしり願下して毎年二月廿三日の終演のり老法玉

より集り来りて女ヶ島とてめ當境にある本の前所のま

たて修治し宝祚延長天下安全の護摩供儀ひり云す

とて悔るまゝとて聖護院宮三宮を門を南に御修

の初りりあは道院よ入市

たてとてあはの旧例にて是道院とて高み終の宿とする

可みあり

什寶神變大菩薩御製長條九字文

女ヶ島深蛇王の尻

行者は母公形

山家集

西の法脈

役の者の

の因是して



錫杖井
 加陀寺
 西福寺
 常行寺

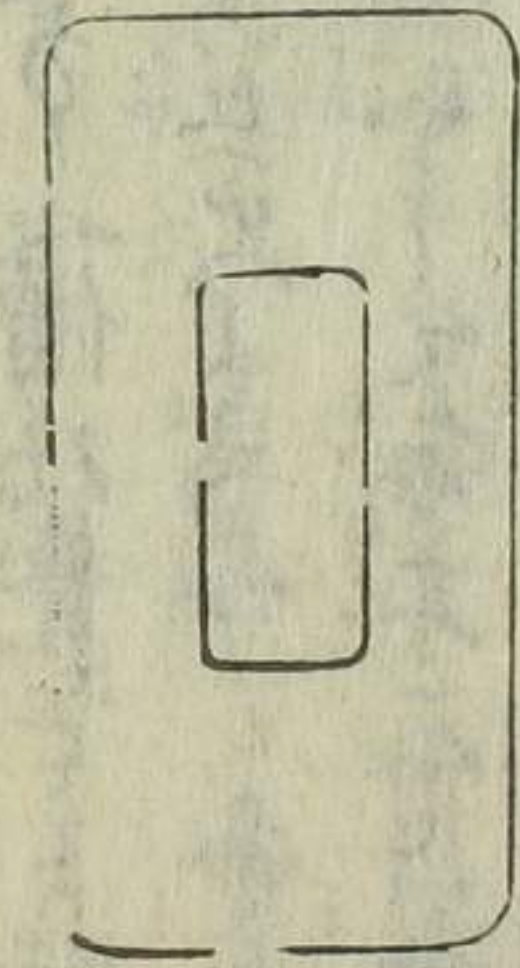
貝の清鑑
 小圓丸
 〇日外影の硯
 日上

篠丸印文



外龍の硯

古鏡如明月
 幾人照到今
 不見古人面
 唯見古人心
 玉山秋儀



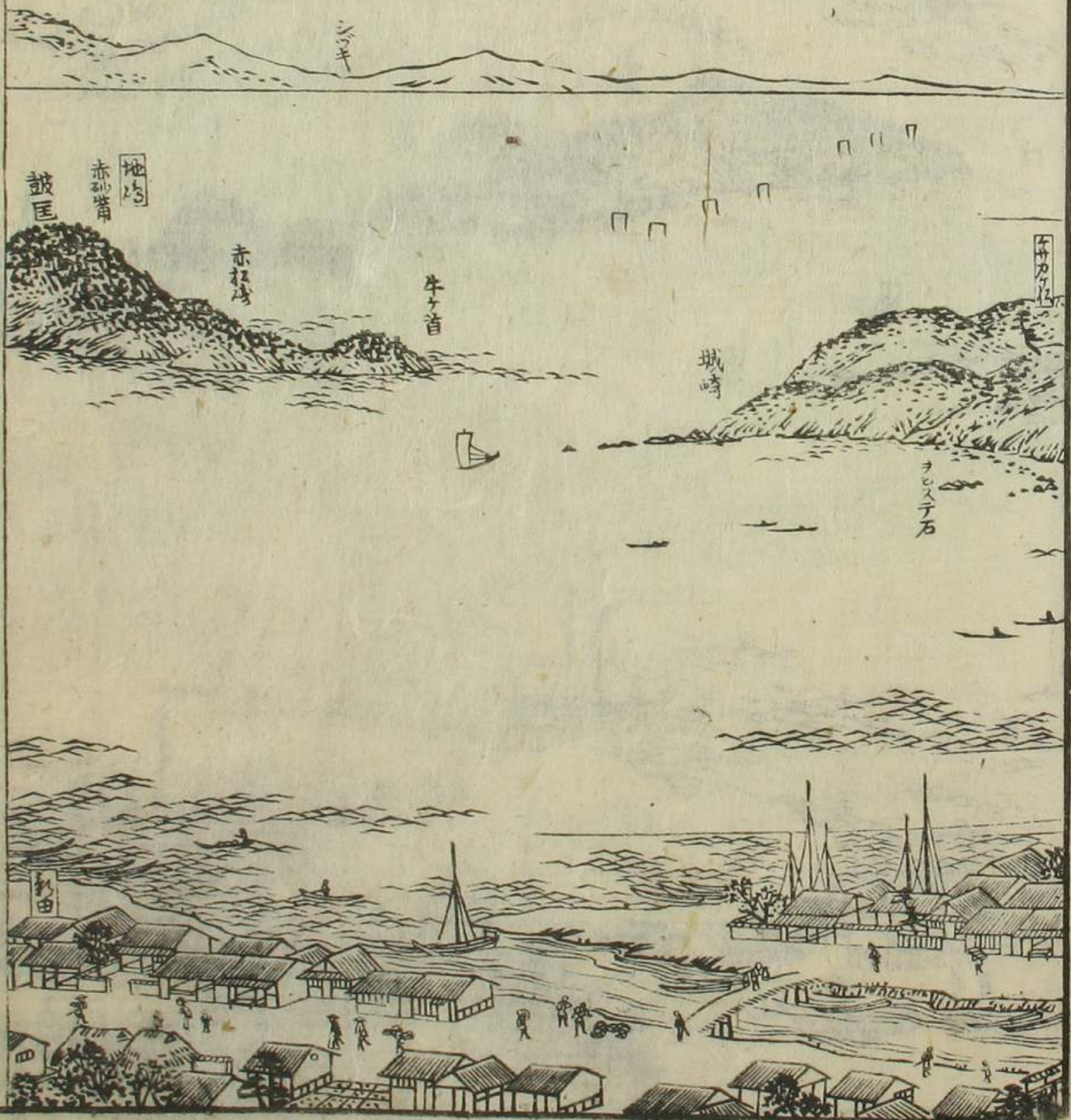
形見清鑑



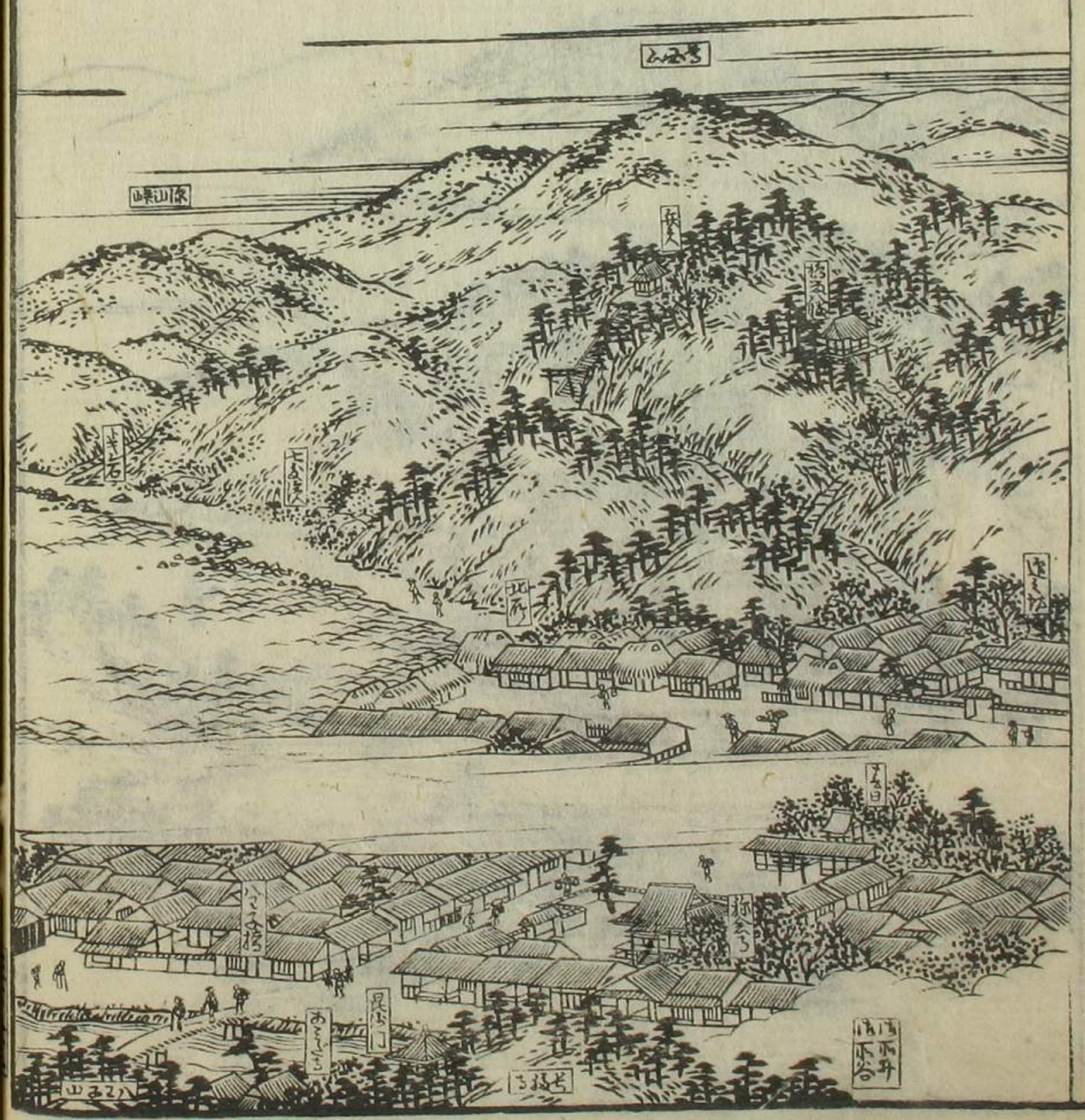
其二

一対のなす
よりあ
浦の波
横儿

城
侍
門の雷
水



尊因山
鶴田八幡
女付文社
迎之坊
春日神社
称念寺
阿弥陀寺
之原寺
昆沙の寺



鳩留八幡宮

日不五の公にたなりあり

辨財天社

日不五の公にたなりあり

尊園山三宿谷経塚

日不五の公にたなりあり

入江宿

日不五の公にたなりあり

五福寺

日不五の公にたなりあり

佛立公常約寺

日不五の公にたなりあり

本寺阿弥陀佛

日不五の公にたなりあり

本寺阿弥陀佛... 佛立公常約寺... 辨財天社... 尊園山三宿谷経塚... 入江宿... 五福寺... 鳩留八幡宮... 日不五の公にたなりあり

迎之坊

迎之坊... 日不五の公にたなりあり

形見浦

形見浦... 日不五の公にたなりあり

各地の豊饒... 諸回船の上下必... 日不五の公にたなりあり



加田和布
 制
 汐燥戲言監與方
 翁和布我以采
 休談異域居高基
 滿眼居兒子湊盛

一浦
 出雲
 柳



新田
 械たて
 河豚
 全坊

社傳より出社少彦名神よりなる神皇靈そのほより
天竺傲少あまのあざしより一由とらるる公性の恢濶たること大海の容水
より亦もたぐさくなくたましくける家み大己貴命と力を賜せ
心成れたるして俱ふけ葦原乃中津御所造り思ひあはるれ
國を造りて是と平けはるるに造りて五穀と樹と一先
莫本を嘗て具然毒ととて療病乃方とらるる更なる
獸昆虫の虫爪搦りてめた禁歴の法を傳へるる遂ふけ
はたよりして跡をたぬたまはるる
以上古事記古語拾遺神皇正統記の事と大同小異あり
るん神代の末に造りて人皇十五代より神功皇后自親二韓
を征し凱旋ましくける無然王の謀及たりて皇太子を
武内宿禰に託し本乃氷門よりさく日高の地よりたり魚を
なまらん官益及難波に向ふるに花廉頻るる風
と起し陽候敷く浪を揚げ漂蕩して丸浦迄去りぬて

進むる海邊より一皇后親く艦よりよとせたまはるる天神
地祇と作ましくけりこのたつらん方を導くもあらずとらるる
とて海中に投りてあはるる流にまき進まはるる
とて安くと漕はるる遂にたつらん海邊にたり
皇太后別名よよくらまはるるたまはるるの神祖
ありと必なる危難免うとてあはるる神たつらんを造りて
あつと別少彦名命とてはるるけりたつらんあはるる神皇の
眞助ありしとて海邊に感しとあはるるけり神皇
業乃祖神にまはるる皇后乃姪娘のほ此あてを造りて
らたまはるると瘴海等の毒はるる神皇の後遂ふ
赤白の帯下れたるに悩まはるる程に幸なるおられ
とて親帯帛とてまはるるをけり願ふとあつと靈驗
御言のたれとらるるけりたつらん初親に憑て神託ありしと

則其ごとくはほい葉をまつるもみ人神不降立きよ
平金ちよせなまゝくはのく皇后神悦再たうたやりて
韓國よてぬわたりし人亦の授くの宝奉納まゝて逐ふ
りてく皇太子に日まふ金しあひ及人忠然玉瓜沫して皇
統恙ちよ奉まの神代は後口くくく神威を作て宗
致あもあひけり其のち十七代の帝仁徳天皇治治考ん杜
備ちうなまゝに神代あつて新よけたに交わたりて
二月三日の日辰ト一宮の宮より新殿に遷しなり皇后の神
靈とりて合也記り あつてはあひの神と合也 其餘二祀乃
御神としあをまつて二區四座と一卒の地と今の地とより
て加ち兼つ大明神と稱す この地にかちといふ今の地と書記
に兼つて合也
彈後而至る世卿とくそにやうて 一宮の神と合也
おのれとありしあひのつと 一宮の神と合也
め倉生病神のりしとあつて畜昆貴乃宮瓜と人懐い

ましてはよの夫婦妹脊の身り子とら女はの身とよの身胎
平産瓜護しなまゝ 子とらとら女の身とよの身胎
とよ衆人乃得作散に歴代候伯の寄附たる料ちうく感念し
かしたとちうとらとら御神縁にんく

おたのむ人の懐とあまの世にあひまの神とつと

○その世に例元年二月二十九日女子雛ありの杜戲あるまゝに
住古神初皇后てはく山彦念命の御神像と信りて出社はま
納ちうなまゝいしとらまを起し其後仁徳天皇の御神代
りうて天下婦女幼児の病苦瓜掃除のよめられ玉玖物と雛
あつと製してよまを祭ちくめとらまを起し玉免とらもゆ
彦念命の御神像にしてまゝ瓜まをたうと雛あいの巻
はんえたり秘つよ

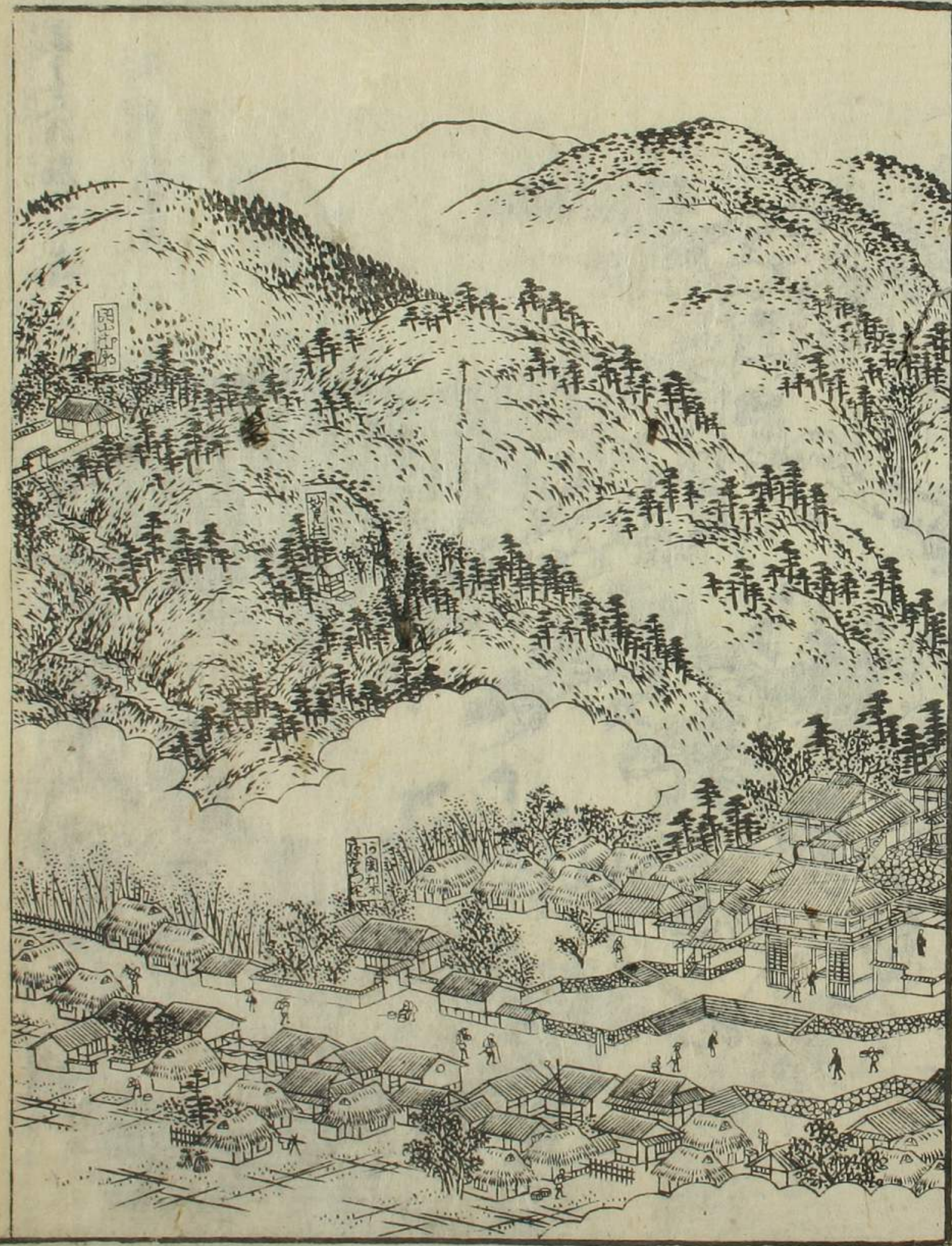
あまらうのよとあひ一杜戲のりしとらまを起し玉免とらもゆ

二丈の碑ありて立ち見親王の筆一あり其風却ちふ
して雅致あり西山の方にも入た様なる後院の乳ごうたるもの
はまは崖の口より上青木なるもてあるなるも登るごとく下登
潭澄つてりて美泉なりといふ一試に杖をたてて大湯とて
らあり登るごとく坤軸なるごとく一層を歩むるに
て道とてあり登るごとく足にともどもあり外の方へ傾りて
ゆるゆるの地とて半の崖に垂れりとの別業致とすんり
射るにちりり一とてありゆるゆるの崖に北
畔にありたるごとくものつれ若く徒の所謂湖と称するものこ
南へ下ると二百歩斗と巨石林とありて海中に立ちあがり
ぐとて岸より島とてありて登ること十歩崖うらむと
大なる穴なるありて其穴に荒井ありありありとて
ありとて一とて穴なる品の崖にありたる若く徒の称とて

胎内なるごとくありて其度とていふ人なるもの
まゝ肩のたれりありとて教へりてゆるゆるの坂にて
餘地ありとてゆるゆるの唯は黒にしてありありなる
採索りてゆるゆるの物ありとてゆるゆるの別産に
る所の碑ありとてありとてありとてありとてありとて
落はまゝゆるゆるのてゆるゆるの崖に登りてありとて
ゆるゆるのゆるゆるのてゆるゆるのありとてありとて
百のありとて西南のゆるゆるの崖に登りてありとてありとて
ゆるゆるのゆるゆるの中なるありとて最界とてありとてありとて
ゆるゆるのゆるゆるのありとてゆるゆるのありとてありとてありとて
ありとてゆるゆるのありとてゆるゆるのありとてありとてありとてありとて
ゆるゆるのゆるゆるのありとてゆるゆるのありとてありとてありとてありとてありとて
ゆるゆるのゆるゆるのありとてゆるゆるのありとてありとてありとてありとてありとてありとて

下まの淵井の碑あり井はは遺へく形もな日だま
より神考ふる其後たてたけり一毎の西はそて
初より其間詭石消支して龜の甲なさるるごとく漂母の
をうかぬごとあるの福羽の素免るは然野の大然る屋
ま状なづけはくごうに梅の喉さるる一神考の其
周囲三百歩にた西南のこみ村として良よあつて細池
あり是別神蹟道の徒はく入る小角神劍をひるのふた
神考の名より示たり是とごうまきごうたけり今栗
考はつりまはし彦名命と津神代のむり後來まき
地をるとしてのく名は負つたて
日本書紀の少妻名命は至然野之
神蹟遠過於常世御矣亦曰至波
而後乘産者別潭波而至常世御矣
今本宣長が本紀と記するに書紀の此事と
同く決然と伯耆國肥後に相入る郡家西北有餘戸里有桑名と云ふ人あり
及又伯耆國の梅は肥後に記をたて度と云ふことありけり此は神代と云ふことあり
今も今も肥後の桑名と云ふことありけり今も今も肥後の桑名と云ふことありけり
今も今も肥後の桑名と云ふことありけり今も今も肥後の桑名と云ふことありけり

一帯の水は濁はると布浦とて其間なる候ま
是處困海路の不慮はそあるる南に砂の
八九下地潭あり雜木枚枅として遠くふた下沼地を
のを採らんとして道もあり客もたつたはり大蛇
なごの極もたる所あるべし園はなごの桑山のこ浦中
にきし出ると海嶽堆とて海嶽常たたまるとして是
をあらなる砂の南界ありありはの美砂ふも西の
淡路の由良は梅として其ちがめらうとしてまき
て人あつて裳とくけりてまきあつて東の
百歩づり道風碕とて人のまきまきまきまきまき





園中
文作
教化
之
流

平等
小
月
若

や

山

心

洛
十
尾

傳
泉

江戸書林

須原屋 茂兵衛
前川 六左衛門

名古屋書林

永樂屋 東四郎

京都書林

小川 多左衛門
鈴屋 安兵衛

和歌山書林

帶屋 伊兵衛

大阪書林

糟屋 仁兵衛

勝尾屋 六兵衛

河内屋 太助

大日本國郡全圖

彩色摺
箱入

全二冊

此六十余州の全圖ハ一少ハ經國の大業小志ある人をして地の理を知
るゝ或ハ遊歴の客廻國順拜の人々勝樂古蹟を探り神社佛閣をめぐり或
尋る小必用の書小ハ比年東嶽翁の撰小ハ其の志海内小ハ其の志
を計り累年の工夫を以て終小大成セリ其各國の郡縣村落山
河小ハ其の形を盡く著色を以て分ち一覽する小易く其の分明なる事
恰も暗中小燭を得たる小掌中を照らす小如く詳小ハ其の乾坤を知
事眼下小歴然と一々小是小ハ其の奇書ありかの仙家縮地の
術も是小ハ及さる一巻を戸を出せ一々天下を去るといふ古
語も嘗て此冊子の為小ハあるを

書肆

尾州名古屋本町通七丁目
江戸日本橋通本銀町二丁目

同 永樂屋東四郎
出店

